

◆教育課程実践モデル事業の終了にあたり◆

学校全体の授業改善や教員、生徒の意識改革、さらにこのことを契機として大学等との連携を深めることなどをねらいとして、2017年度から2018年度にかけて島根県教育委員会より、「次期学習指導要領を見据えて学習者の主体的・能動的な学びを進めるために、高等学校における授業、評価及びカリキュラム設計のあり方を研究し、学習指導の改善・充実を図る」ことを目的とした、「教育課程実践モデル事業」の指定を受けました。

校内の推進組織である研究担当者会を立ち上げ、2017年度には、「生徒同士でお互いに質問し合うような力を身につけ、対話的な学びによって理解が深まり、良い意見を主体的に考え、活動できる力を備えた生徒」を育てるため、国語と数学で論理的思考力、英語で批判的思考力が養われていく取り組みを通じた授業改善をおこないました。2018年度には、英数国を中心として培ってきた実践を他教科にも広げ、学校全体としての取り組みを深めるべく、全教員が共通認識を持ち、学校全体で取り組むことができるよう、教科主任会に働きかけ、年間1人1回は主体的・対話的で深い学びを実践する授業を公開し、研究協議を教科会等で行うようにしました。また、授業改善をより進めていくために、授業評価アンケートの改善や学習成績評価の改善もしました。

教育課程実践モデル事業の「EAST通信」としては、この30号が最後になります。しかし、この事業の成果や課題が、なによりも「思い」が次年度以降も引き継がれていかないとはいけません。そのためにも、私たち教員がこれから何をすべきか振り返りをする中でしっかりと考えて行く必要があります。

本事業を終了するにあたり、この事業の立ち上げからお力をいただいた運営指導員の先生方や永瀬前校長先生、推進役となった校内担当者から、この2年間を振り返って、この事業への思いを語っていただきました。振り返りの一助となれば幸いです。

なお、紙面の都合上、全員分を掲載できないことをまづもってお詫び申し上げます。

◆事業終了にあたって・・・**【永瀬嘉之前校長】**

この事業を申請するにあたって考えたことは、先生方の意識が変わるきっかけとしてほしいということです。1年目はフロントランナーに引っ張ってもらい形で、2年目は全員が思いを共有して進めていくというイメージを持ちました。残念ながら私は2年目には関わることではできませんでしたが、この通信や研修会等で知る限りではイメージに近い形で進んでいると確信しています。”変わる”ことには勇気と根気が必要です。この2年間の成果を勇気と根気を持って更に重ねて行かれることを期待しています。

この「EAST通信」が継続されること切に希望することを申し添えます。

【運営指導委員長 関西大学 森朋子教授】

「教育課程実践モデル事業」は、まさに松江東高等学校の構成員である先生方と生徒が同じ方向を目指し、歩むための基盤となる2年間であったと思います。これまでも当然ながら目の前の生徒たちの学びを高めるために、個々の先生方が取り組んできた内容があります。しかしこれからさらに変化が加速するであろう社会の中で、生徒の人生の重要な3年間の学びを担当する高校として、この活動をさらに深化されることを願っております。

【運営指導委員 岡山大学 高旗浩志教授】

協同学習という視点から本事業に関わりました。全ての先生が自ら授業を公開し、改善に取り組まれたことはとても素晴らしいことです。進学校ほど、先生方は生徒の学力間格差に苦しんでいます。大切なことは、生徒が自分に合う「学び方」を見つけ、自学の質を高めることにあります。記憶力頼みの勉強から、生徒が自ら問いを持ち、課題解決に必要な手立てと考え方を見つけることが必要です。そのためには、「分からない自分」を安心して解放できる授業でなければなりません。協同学習はグループ活動をさせることではありません。先生方の個性が生きる授業改善をめざしてください。

【運営指導委員 島根大学 猫田英伸准教授】

このたびの事業に2年間に渡って関わらせていただく中で、松江東高校の先生方の授業改善に対する意識の高さと、試行的な授業に前向きに取り組まれるフットワークの軽さには強い感銘を受けました。学習者の思考力・判断力・表現力を伸ばすためには、彼ら一人一人に能動的に思考、判断、表現せざるを得ない場面を繰り返し経験させることが欠かせません。この点、松江東高校の生徒さんたちは、教科および学年・学習段階の枠組みを超えた質の高い経験ができたものと確信しています。今後とも同様の取り組みを継続していただくことで、教育実践がさらに系統的なものへと発展していくことを大変楽しみにしております。ありがとうございました。

【教育課程実践モデル事業 校内担当者リーダー 竹田教諭 (英語)】

この2年間、本事業に携わせていただき、個々の授業改善から学校全体の授業評価アンケート改善に至るまで、多くのことを学び、実践させていただきました。1年目は、国語(協同学習)、数学(グループ学習)、英語(ディベートを用いた批判的思考力育成)を中心に取り組んできました。特に、運営指導委員の先生方から、授業や学校全体の取り組みについていただいた貴重なアドバイスは、目から鱗が落ちる思いでした。2年目は、学校全体としての取り組みがさらに盛んになり、様々な教科の授業を参観させていただく中で新たな視点を得ることができました。この事業を通して、学校全体としてすべての教員が共通のビジョンを持つことの大切さを再認識させていただきました。また、得たことを生徒のより豊かな学びに繋げていきたいです。最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださった皆様に心から感謝いたします。



【教育課程実践モデル事業 校内担当者 森本教諭 (国語)】

本事業1年目は、教育課程実践モデル事業の校内担当者4名が、担当教科において各々の考える「主体的・対話的・深い学び」について仮説を立て、県内外の研修に参加して学んだことを実践に生かし、アンケートや試験結果等で検証を行いました。担当者が個々の研究を深めることができましたと感じています。しかしながら、先進的な学校や自治体の実践を知るにつれ、個人や一部の教員の実践ではなく、学校全体としての取り組みが必要であると知り、焦りを感じました。

2年目は、従来の「授業評価アンケート」、「評価のあり方」の改変案を作成することで、学校全体で「生徒につけたい力」の共通認識を持って実践できる体制を整えることができました。また、全教員が授業実践することで、学校全体での取り組みにつながったと感じています。

2020年度からは「大学入学共通テスト」が導入されますが、共通テストのための授業改善に陥ることなく、今後も学校全体として、「生徒につけたい力」を見据えた教育課程実践を行うことが大切だと考えています。

【編集後記 教頭 山崎誠】

人権・同和教育の研修で、「新人社員は、入社(就職)してから3週間目、3ヶ月目、3年目に辞めたい気持ちが出てきやすい。その時3つの思いを訴えることが多い。自分ばかりが叱られるという思い。きちんと教えてもらえないという思い。一番は、世代の違う人とのコミュニケーションは疲れるという思いである。これを乗り越えるためには、職場での気働き(気遣い)ができるかが大切である。」という話を聞いたことがあります。

学校という職場も、世代の違う教員で構成されています。しかし、世代を超えて同僚意識が高いのが学校の特徴と思っています。また、専門教科を教える高校においては、授業は自分でどうにかしていくものであるという意識が少なからずあって、お互いの気働きは、お互いに干渉しないことになってしまうこともあると思っています。少なくとも、同僚教員から授業のことで叱られることはほとんどありません。

2年間、教育課程実践モデル事業を推進する上で教頭として一番意識したのは、個々の教員が授業改善を積極的にしていく契機にすること以上に、同僚意識が強いのが教員の職場であることを良い意味での利点として、授業改善を協働して行う風土を醸成することでした。そうした風土が醸成されれば、活発なコミュニケーションが生まれ、そのことで教員間の関係の質が高まり、さらに思考や対話の質が高まっていくはずであると考えました。それこそがカリキュラム・マネジメントの核と考えました。

その協働性を高めていくツールとして、また、研修や研究授業での学びを全教員で共有していくツールとして、本事業1年目の2学期から「EAST通信」を発行し始めました。

一番の反省は、協働を推進していくためのツールとしてはじめた「EAST通信」でしたが、原稿を依頼することはあっても、協働して作成する観点に欠けていたことです。例えば、ある号は数学科にお願いしてみる。ある号は教務部にお願いしてみる。また、ある号は進路指導部と教務部の合同でお願いしてみる。そうしたことを全くしませんでした。

今後、「続EAST通信(仮称)」を発行して行く上では、この観点をに入れていきたいと考えています。「自分の授業のこんなところを見て欲しい。こんなところで困っている・・・」そんなことを気軽に語り合えるツールとしての通信になっていけば、さらに協働性が高まっていくのではないかと考えています。

これまで、本事業を進めていく上で、ご支援・ご協力をいただきました、教育指導課をはじめ運営指導委員の先生方、研究授業や研修会にお越しいただいた方々、そして「EAST通信」を読んでいただいた方々に、この場を借りてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。そして松江東高校の先生方、おつかれさまでした。さらにこの事業での思いが継続されることを祈念しています。